

モンゴル近代韻文におけるモンゴル文化のいくつかの特徴 —国民栄誉作家 B.ルハグワスレンの韻文を例にして—

ラグチャーギーン・ビゲルマー (Ragchaagiin BIGERMAA)
(モンゴル国立科学技術大学外国語学部アジア研究学科専任講師)

キーワード：韻文の描写、モンゴルの生活、風俗習慣、文化

あらゆる民族の文学の発展において韻文のジャンルは重要な位置を占めている。韻文は当該民族の才能、精神文化 (оюуны соёл)、思想領域、思考と表現の特徴、哲学的信条、心理的内面世界のすべてを含んだ内容を有し、生活と生存の理由、精神文化 (утга соёл)、風俗習慣、芸術の特殊な複合体として存在し続けてきた。

文学の世界では各時代の先駆者とも言うべき詩人たちが登場し、書き方、思想、芸術的な描写様式、創作方法などが次第に洗練され、言語芸術のジャンルにおいて特別な独立した現象が生じた。それと同時に、そのような先駆的な作家たちの手法にしたがう思潮や芸術的な能力を備えた流派が自然に形成され、文学に貴重な貢献をする現象も生じた。このような現象を刷新と言う。これは以前の時代の伝統と密接に関係している。モンゴル近代文学、その中でも特に韻文は、このような発展法則にしたがって発展し続けてきた。

モンゴル民族は古来、母語による言語芸術である韻文で語り合う民族だったので、研究者は韻文の伝統、発展、変化をめぐる問題を研究し、多くの興味深い結論を導き出してきた。

韻文の発展する時代はすべて、独自の手法と思想を持つ先導的な詩人たちを生み出し、書き方、思想、詩学の刷新が行われ続けてきた。その意味において、1930年代の詩人では D. ナツァグドルジ、1960年代の詩人では B. ヤボーホランが刷新を行ってきたが、1990年代の韻文の世界では、B.ルハグワスレンがそのような詩人であったとするのが妥当であろう。

本発表では、二十世紀の 1980-1990 年代を代表する主要詩人である国民栄誉作家 B.ルハグワスレンの作品に描写されたモンゴル文化のいくつかの特徴を明らかにするよう努めた。

モンゴル文化とは、モンゴルの民衆の精神的・物質的な特殊性を表現した多面的で豊かな内容を持つ広範な概念であり、自然、気候、従事している生業に関わる遊牧文明に依拠している。

B.ルハグワスレンの韻文には、モンゴル人の精神文化の貴重な遺産、思想的特徴、シンボリズム、そしてモンゴル文字、モンゴル^が住居、民族衣装、民族音楽といったような精神文化と物質文化、モンゴルの風俗習慣、民族祭典など多くの事項が描写されているのが特徴的である。たとえば、遊牧民の基本的な住居であるゲル、それにまつわるモンゴルの風俗習慣、シンボリズムについての描写、またモンゴル人の生活描写に基づき、モンゴルの女性の裁縫技術 (手芸)、母子の神聖な関係、日時計、方角と数の象徴性などを明らかにするために、修辭的な表現をどのように用いているか、語句をどのように選択しているかなどの問題を取り上げたところに、本発表の価値と新しさが存する。